

# 患者の皆様へ

平成 30 年 6 月 16 日

心臓血管外科

現在、当院では、「Stanford B 型急性大動脈解離」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では「Stanford B 型急性大動脈解離」の患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名

「Stanford B 型急性大動脈解離における遠隔期解離関連手術となる危険因子探索による臨床予測ルールの開発と検証研究」

\*急性大動脈解離：3 層構造を作っている大動脈のうち、何らかのきっかけで真ん中の層の膜（中膜）に血流が入り込み、層構造が別々に剥がれていく（解離してしまう）疾患。

\*Stanford 分類：上行大動脈に解離が及んでいる A 型と及んでいない B 型に分類している。

## 2. 研究の意義・目的

Stanford B 型急性大動脈解離の慢性期に手術加療を必要とした方や予後不良となった方の予測因子の組み合わせで、リスクスコアを作成し比較的早期に加療を導入すべき基準の同定を目指します。

## 3. 研究の方法

他施設で Stanford B 型急性大動脈解離と診断し加療を行った方の所見（年齢、性別、既往歴、血圧、CT 画像データ）を検討し、分類・解析を行います。その後、当院で 2012 年から 2016 年までに Stanford B 型大動脈解離に対して加療された方の所見（年齢、CT 画像データ）を使用して検証作業を行います。新たな検査などは行わないので患者さんへの負担はございません。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた臨床情報は匿名化し、個人情報から切り離して管理いたします。個人情報は、外部に洩れることのないよう厳重に管理します。データ解析は千葉大学医学研究院 グローバル臨床試験学講座で行います。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととしています。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。それにより不利益をうけることはありません。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

当該研究における開示すべき利益相反はございません。

**研究代表者 慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 佐藤泰憲**

**研究実施機関** : 倉敷中央病院 心臓血管外科  
千葉大学大学院 医学研究院 グローバル臨床試験学  
千葉中央メディカルセンター 心臓血管外科  
誠馨会千葉メディカルセンター 心臓血管外科  
榊原記念病院 心臓内科・心臓外科  
新東京病院 心臓内科・心臓血管外科  
東京ベイ浦安市川医療センター 心臓血管外科

**本件のお問合せ先** : 千葉大学医学薬学府 先端医学薬学専攻 大学院生

**誠馨会千葉メディカルセンター 心臓血管外科 主任医長**

**医師** : 松下明仁

**043 (261) 2305 内線8173**

**公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 心臓血管外科**

**研究責任者 島本健**

**086 (422) 0210 (代表)**